

大阪市立西天満小学校校長室だより 平成29年度第17号 130 平成29年12月11日

明日も元気で来いよ！

ここ数日は、急に冷え込みました。4日（正確には、3日の深夜）は、スーパームーンでした。冷たく澄んだ空気の中、天心に輝く大きな月の光を浴びていると、心まで洗われるようでした。

そして、7日は、二十四節気の「大雪」。暦通り、真冬の寒さがやって来ました。

さて、16号でお知らせしたように、12月の玄関掲示の素材は、ポインセチア、松笠、雪でした。

ポインセチアの和名「猩々木」（しょうじょうぼく）

子どもたちに出した問題は、『『ポインセチア』の和名（日本で、昔から呼ばれている呼び名）は何でしょう？』でした。

今回は、難しいので、出題と同時に校長室前に右のようなヒントをはり出しました。

早速、たくさん子どもたちが、校長室へやってきました。中には、掲示を見て、問題を予想し、私が出題する前から、正解する子もいました。



正解は「猩々木（しょうじょうぼく）」（猩猩木とも書きます）です。猩々というのは、赤い顔をした猿のような想像上の動物のことです。その赤い顔とポインセチアの赤い葉（正確には苞葉）が似ているので、猩々という名がついたといわれています。ただし、これには、いろいろな説があるようです。猩々は、能の演目にもあります。また、オウタンの別名とも言われています。

今回の出題にあたって、インターネットや本をいろいろ調べました。毎月、いろいろな植物や季節の風物詩にまつわる問題を出題することで、私も、いい勉強になります。子どもたちには、今、この時点で、これらのことが知識として心の中に根付かなくてもよいのです。いつか、ふとした瞬間に「あ、そういえば、西天満小学校の校長先生が・・・」というように、思い出してくれることがあればいいな、と思っています。

俳句のまね事も

「白き夜にポインセチアの鉢ひとつ」は、私が俳句のまね事をしてつくりました。

雪が降り積もる中、真っ赤なポインセチアが浮かび上がるような情景を思い浮かべたのですが・・・みなさんに伝わっているでしょうか。

俳句には、季語をはじめ、いろいろな約束事があるようです。こんなの俳句じゃない、

とお叱りの声がきこえてくるかもしれません。全くの我流ということで、お許しください。子どもたちには、五七五という文字のリズム、伝えたいことを限られた文字数で表すことなどの楽しさにふれてほしいと願っています。



山茶花が咲き始めました

南門をはいって右側の植え込みにある山茶花（サザンカ）が、花を開き始めました。まだ一輪だけですが、周りのつぼみもふくらんできています。もうすぐ、たくさんの花が咲きそろうでしょう。

山茶花が植わっている植え込みは、現在、工事車両の通路として閉鎖しているエリアにあります。そのため、普段は立ち入ることができませんので、気づかずにいるところでした。

しかし、8日の朝、校舎増築工事のガードマンさんが、登校指導へ向かう私を呼び止め、わざわざ教えてくださったのです。

そのお気持ちがうれしいです。ガードマンさんありがとうございました。

お二人のガードマンさんは、工事車両の出入りから、子どもの安全を見守るだけでなく、登下校時や休み時間にいろいろと声をかけていただいています。そのため、子どもたちの方からもあいさつをしたり、いろいろと話しかけたりしているようです。ガードマンさんとのこういった、ふれあいも、子どもたちの心を育てることにつながっていると思います。ガードマンさん、いつもありがとうございます。

校長杯わんぱく相撲大会・もちつき大会

12月2日（土）、校長杯の相撲大会がありました。70名近い子どもが参加し、熱戦を繰り広げました。1対1で全力を尽くして勝敗を競う経験は、勝っても負けても、子どもたちにとって貴重な育ちの場になりました。

そして昨日12月10日（日）は、もちつき大会でした。120名ほどの子どもが参加していました。こちら、子どもにとってかけがえのない経験でした。

どちらの行事も、校下子ども会、PTA、地域の皆様が企画から、準備、当日の運営、そして後片付けにいたるまで、子どもたちのために尽力してくださいました。たくさんの方々が、熱心に活動してくださっている姿は、子どもたちにとって、すばらしいお手本だと思います。皆様の姿にふれた子どもたちは、地域の子どものために力を尽くす大人として成長してくれることだと思います。ありがとうございました。